

キューバ人作家レオナルド・パドゥーラ氏講演会

「レオナルド・パドゥーラのキューバ」

現代キューバを代表する作家が語る祖国

5月16日(木) 13:50-15:30@R452 (逐次通訳あり)

レオナルド・パドゥーラ氏は現代キューバを代表する作家として、1990年代後半以降、国内から世界に向けて小説作品の発表を続けています。21世紀のキューバに生きる作家の視点から、ロシアの革命家トロツキー暗殺の謎に迫る大作『犬を愛した男』(2009)は、スペイン語圏全体に大きな反響を呼び起こしました。今回はその邦訳『犬を愛した男』(水声社)の出版に伴い初来日。

**本学では、作家自ら、キューバの様子や若者について紹介していただけることになりました！
キューバに関心のある学生やクラスの来場を歓迎します！**



【プロフィール】

1955年、キューバのマンティージャ生まれ。ハバナ大学で文学を専攻、文学雑誌や新聞の編集に携わり、1990年から探偵小説の執筆に取り組む。〈マリオ・コンデ警部〉のシリーズによってキューバ国内で名を知られ、シリーズ第3作『仮面』(1995年)でカフェ・ヒホン賞を受賞。以後、スペインの出版社から長編小説の刊行を続けている。『我が人生の小説』(2002年)で純文学を手掛け、『犬を愛した男』はスペイン語圏全体で大ヒット作となった。2015年にはスペインの権威あるアストゥリアス王女賞を受賞。

【邦訳作品】

- ・『アディオス、ヘミングウェイ』(訳:宮崎真紀、ランダムハウス講談社、2007年)
- ・『狩獵者』(『すばる』2004年11月号 ※同号にはインタビューも掲載)
- ・『犬を愛した男』(訳:寺尾隆吉、水声社、2019年)

スペイン語学科主催
セルバンテス文化センター後援
キューバ大使館協力

問い合わせ先:立岩(r_tateiw@kufs.ac.jp)